

夕張川かわら版

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

平成21年初春

其の十三

2008 夕張川での学習活動

テーマ① 川のなりたちを知る



川の中は藻がついていたりして滑りやすいので、慎重に歩いていきます。



川の浅い場所、深い場所、流れの速い場所、緩い場所を実際に歩いて学んでいきます。

テーマ② 魚をとる



網の使い方、魚の居場所を教わります。



初めはぎこちなかった網さばきも、だんだん上手になってきます。



魚の観察です。今年もたくさん捕れたので勉強のしがいがあります。

夕張川・川の学習会は、川の中を歩き、川のなりたちと仕組みを学ぶ。テーマ①…川のなりたちを知る。と、清幌床止で魚を捕り、観察して勉強する。テーマ②…魚をとる。の2つのテーマで行われました。また、今年は河川清掃も行われ、参加した子ども達とスタッフが川の中を歩きながら、ゴミを拾いました。

南幌町

夕張川・川の学習会

○日時：平成20年9月9日(火) 9:00～11:30

○場所：夕張川下流

○参加者：南幌町みどり野小学校児童、夕張川流域住民の方々

♪夕焼け小焼けの赤とんぼ♪
♪負われて見たのはいつの日か♪
童謡として歌われている赤とんぼ。今紹介するアキアカネが、この赤とんぼです。地元の話によると、今年の秋に栗山町のハサンベツ地区でかなりの数が見られたそうです。赤とんぼは栗山町に限らず、夕張川流域はもろろんのこと、日本各地で普通に見られます。



アキアカネ
いわゆる赤とんぼです。

夕張川の生き物たち

アキアカネ

体長は40mmほどです。5月末から6月下旬に羽化したアキアカネは小昆虫を空中で捕食してエネルギーを蓄え、7月から8月の盛夏を高原や山岳地帯に移動して過ごします。この高原や山岳地帯への移動は他のトンボにも見られますが、アキアカネはこの移動が極端に長くなるのが特徴です。成熟した成虫は体色が橙色から赤に変化して、大群で山を降り、平地や丘陵地、低山地へと移動します。その後、交尾・産卵を行います。成虫は11月まで見ることが出来ます。

成虫を乾燥させたものは薬となり、解熱剤や強壮剤として効果があるとされています。その一方で、捕まえると罰が当たるといわれています。雷に打たれるとして「かみなりとんぼ」と呼び、東海地方では目が赤くなったりお腹が痛くなるという伝承があります。

参考文献
・朝比奈正一郎 著「アカトシゴ」『世界大百科事典』
・石田昇一 著「日本産トンボ幼虫・成虫検索図鑑」
・日浦勇一 著「アキアカネ」石原保 監修「学研生物図鑑」(尾山)

夕張森林鉄道



夕張川流域の森林は国有林が多く、昔から材木として伐り出されてきました。当初、運搬は夕張川を利用した流送と馬そりを利用していました。伐採の大規模化に伴い、三菱石炭鉱業大夕張鉄道の大夕張炭山駅付近から、夕張川沿いにその上流とを結ぶ主夕張線が建設されました。



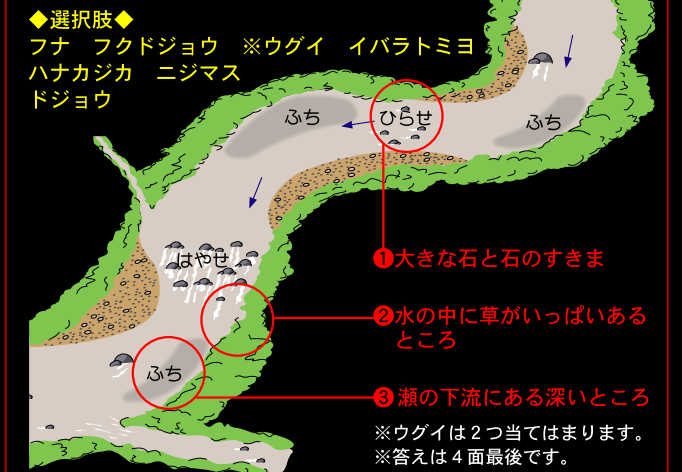
シューパロ湖に架かる三弦トラス橋。この構造の橋は珍しいといわれています。

参考文献
・土木学会北海道支店「支店報告集」
・「北海道の森林鉄道史に関する研究」

木の運搬量は飛躍的に伸びました。しかし、道路や林道が整備されると、運搬の主力がトラックに移り変わり、営林事業の衰退もあって、次々と路線が縮小されました。そして、下夕張線を最後に全線が廃線となりました。

問 夕張川クイズ

今年初夏から秋の始まりにかけて、夕張川流域では様々な川の体験学習が開催されてきました。その中で、子ども達をはじめ、体験学習の参加者は多くの魚達を捕まえました。では、どこでどんな魚達を捕まえたのでしょうか？ 次の1～3の場所にいると思う魚達を、下の選択肢の魚達から選んで下さい。



- ◆選択肢◆
フナ フクドジョウ ※ウグイ イバラトミヨ
ハナカジカ ニジマス
ドジョウ
- ① 大きな石と石のすきま
- ② 水の中に草がいっぱいあるところ
- ③ 瀬の下流にある深いところ
※ウグイは2つ当てはまります。
※答えは4面最後です。

夕張川・川の学習会で捕れた魚達

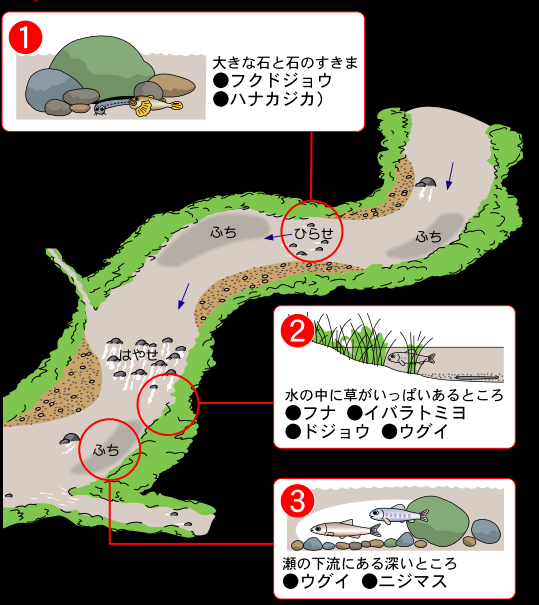
- ◆カワヤツメ ◆ジュスカケハゼ
- ◆コイ ◆ウキゴリ
- ◆キンブナ ◆シマウキゴリ
- ◆ギンブナ ◆ヨシノボリ
- ◆ウグイ ◆ハナカジカ
- ◆エソウグイ ◆イバラトミヨ
- ◆モツゴ ◆スジエビ
- ◆フクドジョウ ◆モクスガニ

河川清掃



短い時間で、しかも川の勉強をしながらのゴミ拾いでしたが、これだけ集まりました。
スタッフがゴミ袋を持ちながら川の中を歩き、みんなで目についたゴミを拾っていきます。

問の答え



- ① 大きな石と石のすきま
●フクドジョウ ●ハナカジカ
- ② 水の中に草がいっぱいあるところ
●フナ ●イバラトミヨ
●ドジョウ ●ウグイ
- ③ 瀬の下流にある深いところ
●ウグイ ●ニジマス

『第1回 川の学習補助教材に関する意見交換会』を開催しました。

○日時：11月13日(木) 18:00～20:00
○場所：栗山町カルチャープラザEki



『たんけん夕張川学習ノート』を使って魚の観察会を行っています。(H20年夕張川塾)

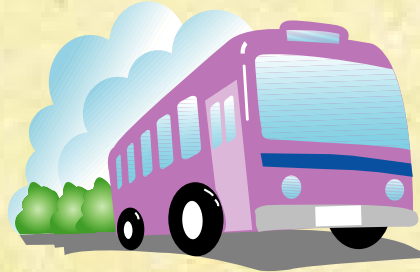
◆【今後の方針】
●教材はその使い手がいること、使い手が使いやすいことが大切である。
●川から何を学び、子ども達に何を伝えられるかをもう一度考える。

昨年度完成した『たんけん夕張川学習ノート』は本年度も夕張川流域で行われた川での環境学習の場で使用され、活躍していきます。本年度はその続編をどうするかについて意見交換を行いました。第1回目は、昨年度までを振り返って、改めて手引書のあり方、使われ方を確認しました。意見交換の結果、今後どのように進めるかのおおまかな方針を決定しました。



第16回 夕張川流域会議

現地視察を行いました



○日時:11月10日(月)13:15~16:20

○現地視察場所:阿野呂川合流部、雨煙別小学校跡地

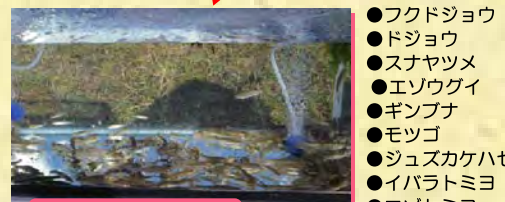
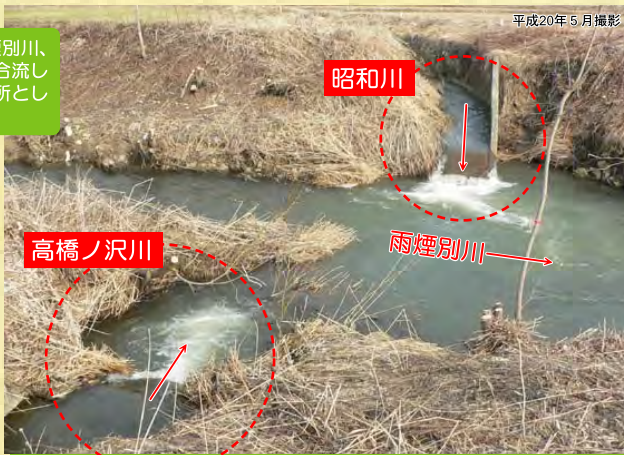
今年度の現地視察のテーマは「川の活動拠点のあり方」です。活動場所になっている2ヶ所を見ながら川の活動が安全かつ効果的に進められるように河川整備のあり方も考えました。

雨煙別小学校跡地付近

雨煙別小学校跡地では現在、廃校となった校舎と周辺の川を、水辺の学習拠点として再生しようとしています。旧校舎は今後、宿泊型施設として再生されます。なお、この事業はコカコーラ教育・環境財団の支援のもと公益法人、栗山町、NPO団体等が連携して進めています。



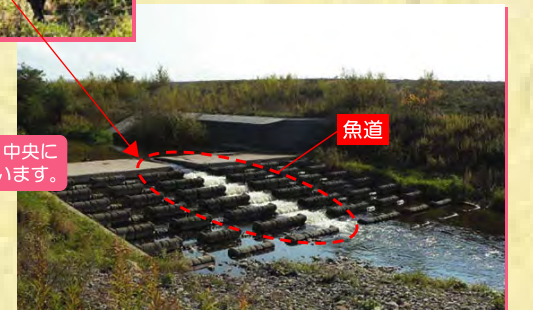
旧雨煙別小学校の裏手で雨煙別川、高橋ノ沢川、昭和川の三川が合流しており、そこを水辺の学習場所として計画しています。



高水敷では活動時に昼食やボートの組み立て、片付けなどを行っています。



夕張川合流点手前の写真。湯水期にはこの水量が三分の二くらいに減ります。



阿野呂川で河川清掃

第16回夕張川流域会議の参加者全員で、現地にいる間に付いたゴミを拾いました。



少し歩いただけでこれだけのゴミが落ちていました。およそゴミ袋3つ分!

ゴミ分別の結果

資源ゴミ	缶:3 ビン:1 ペットボトル:1 プラスチック類:8 ダンボール:0
燃やせないゴミ	金属製品:0 ガラス製品、破片:0 皮革・ゴム製品:0 発砲スチロール:0
燃やせるゴミ	紙くず、紙片:11 衣類、布きれ:1 木材・木片:0
その他のゴミ	ビニール製品:47 貝殻:2



意見交換会

夕張川と阿野呂川合流部・雨煙別小学校跡地付近を視察した後は、栗山町役場にて意見交換会を行いました。

《阿野呂川合流部の現状》

- ◎栗山J.C(栗山町青年会議所)等が川の活動拠点として利用しています。
- ◎河岸から水面へアクセスしやすく、夕張川塾では、ボートの発着場として利用しています。
- ◎落差工には魚類の遡上に配慮した魚道が設置されています。
- ◎サケマス魚類の産卵が可能な河川環境があります。

各委員の意見・感想

- ▼今年には特に水が少なかったため、河岸がヤナギで覆われ河川断面が固定されつつある。このままでは現況断面の中で無理やり流れようとするため、河床低下や瀬や淵が消滅した単調な河川に変化してしまう。
- ▼大きな淵はサケマス等の越冬場所として必要である。大きな淵をつくれれば必ず下流に平瀬ができ、子どもにとっても遊びやすい川になる。
- ▼落差工の魚道が、清幌床止と同じく中央に設置されているが、きちんと機能しているかが気になる。
- ▼阿野呂川合流部は体験学習の場所として短期から長期の利用まで、対応が可能だと思われる。よい改善方策があれば改善していきたい。
- ▼阿野呂川は魚種が豊富で、自然の形態を活かした体験学習ができる素晴らしい場所だ。治水などの関係を踏まえつつも、あまり手を加えず、できるだけ自然のままの状態を保ってほしい。
- ▼阿野呂川は家庭ゴミがほとんどない。流域の住民が協力して川をきれいに保っていると感じた。
- ▼阿野呂川合流部、雨煙別小学校跡地付近はある程度用地に余裕がある。川の流れにまかせた整備を進めればおもしろい川づくりができ、将来も利用される。

《雨煙別小学校跡地の現状》

- ◎公益法人、町、NPO団体等が、環境学習の拠点として計画整備中です。
- ◎ボランティアも参加して旧校舎を改築しています。
- ◎旧校舎背後を流れる三川の合流部付近には、淵や瀬が形成されており、サケマス魚類の産卵が可能な河川環境があります。
- ◎ここではサケの稚魚放流、また上流部ではサケ・マスの魚卵放流活動が行われています。

各委員の意見・感想

- ▼旧雨煙別小学校のように、使用されずに解体を待つだけの施設を再生して活用していくことは素晴らしいことである。
- ▼川の深み(淵)でエネルギーが吸収されているので、その下流に砂利がたまっている。そのような砂利の周辺がサケマスの産卵場所としてすぐよい場所になっている。
- ▼自然の川には大きな淵があり、淵に続く河原が必ずある。水面幅は現況のままとして、水が自由に遊ぶ空間を大きくとることにより、瀬、淵が保全され河原ができる。そうすれば、相当数の子どもが川体験もできる。魚をどのように捕まえるか、魚がどこに棲んでいるかなど、様々な川体験を通じて、川はこうあるべきだというのが生まれてくる。
- ▼雨煙別小学校跡地付近の整備は、行政と地元住民等が協力し、効率的に分担しながらつくり上げていくことが大事なのではないだろうか。
- ▼雨煙別小学校跡地付近の整備は、今後行政の協力を得られる為にも、しっかりとした整備計画を定めて進める必要がある。
- ▼行政側で水辺の楽校等の整備支援を行うには、活動主体と実績が必要である。雨煙別小学校跡地付近においても、実際に子ども達が活動するなど、今後の利用方法を定めることが大切である。

その他意見等

- ▼現地視察で実際に川へ行くことは、川の流れ、川の地形などを視覚からも理解でき、参考になる。また、事前に説明等があればさらに理解しやすい。
- ▼全国的にいい川づくりが行われている地域は、流域の連携がしっかりとできている。夕張川は自然環境、自然景観が残っているの町村が利用できるといふ感覚で連携した整備を進めていくとよい。